

第 8 回 旧北上川河口かわまちづくり検討会

旧北上川河口かわまちづくり検討会について

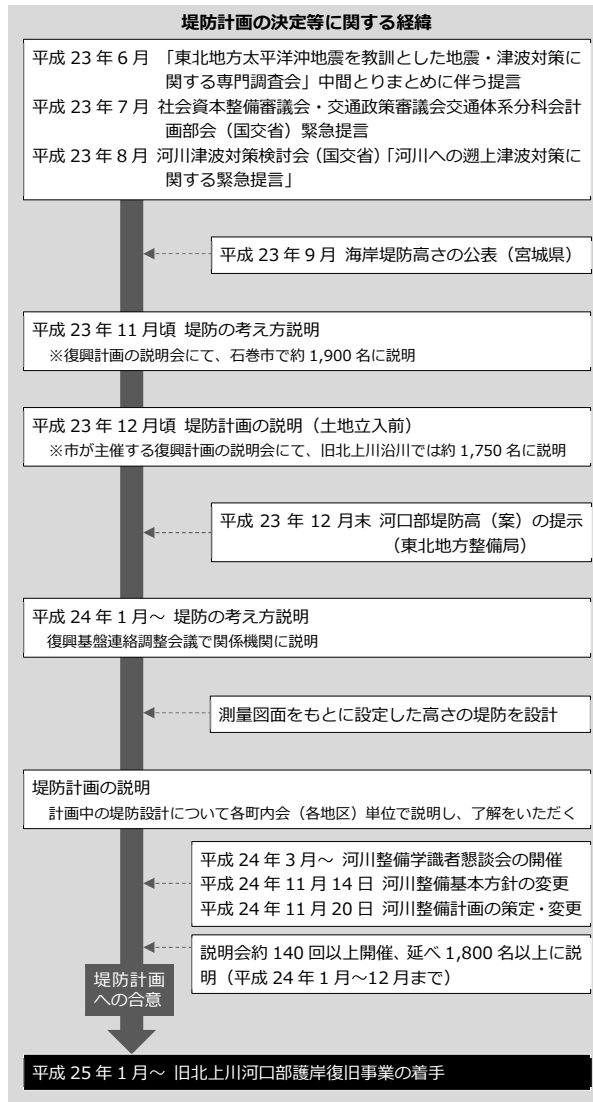


国土交通省 北上川下流河川事務所



石 巻 市

1 旧北上川河口かわまちづくりのこれまでの経緯



旧北上川河口かわまちづくり検討会 等

旧北上川河口かわまちづくり検討会
平成 25 年 7 月～ 計 8 回開催

- 景観の基本方針、デザインの方針および各検討結果等を審議する

ワーキング

平成 25 年 8 月～平成 27 年 6 月 計 7 回開催

- 水辺空間に関する技術的検討を行う

調整会議・特別ワーキング

平成 27 年 12 月～令和 2 年 11 月 計 5 回開催

- 水辺空間の整備内容について、地区別ワーキングでの検討内容の確認・協議を行う

地区別ワーキング

平成 27 年 8 月～令和 2 年 11 月 計 60 回開催

- 水辺空間の整備内容について、「検討会」他での検討・協議・審議結果を踏まえ、各関係機関の実務担当者が、デザイン検討、関係区間調整、事業調整等を行う

第 1 回検討会
H25.7.22第 1 回ワーキング
H25.8.11

旧北上川河口かわまちづくり

地域の方々のご意見を伺う場

パブリックコメント

平成 25 年 11 月 21 日～12 月 20 日

ワークショップ

◇住吉小学校わーくしょっぷ

平成 25 年 11 月 25 日

◇地域ワークショップ

第 1 回：平成 25 年 12 月 22 日
第 2 回：平成 26 年 1 月 18 日

市民報告会

平成 26 年 6 月 29 日

- 検討開始から 1 年経過し、その中間成果を市民の皆様へ報告するために開催

市民部会

平成 26 年度～平成 30 年度

- 地域や河川を利用する方々の意見を整備に反映させるために開催
- 沿線を 6 地区に分け、それぞれで意見交換会を実施

◇南浜・門脇 2,3 丁目地区
『船だまりの会』 計 3 回開催◇中央・門脇 1 丁目地区
『中央門脇川と未来の会』 計 3 回開催◇住吉・大橋地区
『住吉大橋開拓チルドレン』 計 4 回開催◇川口・湊地区
『かわ湊の会』 計 4 回開催◇不動・八幡地区
『私、船（わたしぶね）の会』 計 3 回開催◇井内・藤巻地区
『かつばの会』 計 4 回開催

水辺空間の利活用に関する取組み

ミスベリング石巻

平成 27 年度～

- 旧北上川を中心に新たな水辺空間を利用した取組みを行うためのプロジェクト

みずべマルシェ in 北上川

平成 27 年度～

- ミスベリングプロジェクトの社会実験として、河川管理施設を活用した様々な活動を実施

かわまちウォーク・散歩

平成 27 年度～

- 工事箇所等を地元の方々と一緒にウォーキングや散歩を行い、整備状況等を説明

旧北上川堤防利活用協議会

平成 30 年度～

- 都市・地域再生等利用区域」の指定を目指すし、新しく創出される水辺空間を活用していくための社会実験を実施中

その他

- 関係者間での整備イメージの共有、わかりやすい広報等のために、模型や VR（バーチャルリアリティ）を活用
- 現場に赴きデザイン監理を行いながら施工



住吉小学校わーくしょっぷ



地域ワークショップ



市民報告会



市民部会



地区別 WG



デザイン監理



水辺で乾杯（ミスベリング）

2 各地区における当初案と現在の整備内容

(1) 南浜地区

整備の考え方（当初案）

- 祈念公園やマリーナ整備等の計画を踏まえ、河川空間との関係に配慮します。



令和2年12月撮影

●南浜マリーナ 陸間



- ・コンクリートが主体の空間で、印象的なアクセント効果を発揮するよう、敢えて色味を持たせた操作室
- ・ゲートは非塗装（ステンレス製）とし、鈍い色に見えるような仕上げ
- ・カメラ等外付け施設の位置にも配慮

●石巻南浜津波復興祈念公園との連携

- ・祈念公園の園路舗装色と合わせた舗装の歩行空間を確保するとともに、横断歩道を設置
- ・堤防天端にポケットパーク的な整備を行い、祈念公園と合わせた舗装を敷設するとともに、パーゴラ・ベンチ・サイン等を設置し、公園と河川との連携を図る

●角部法尻の処理

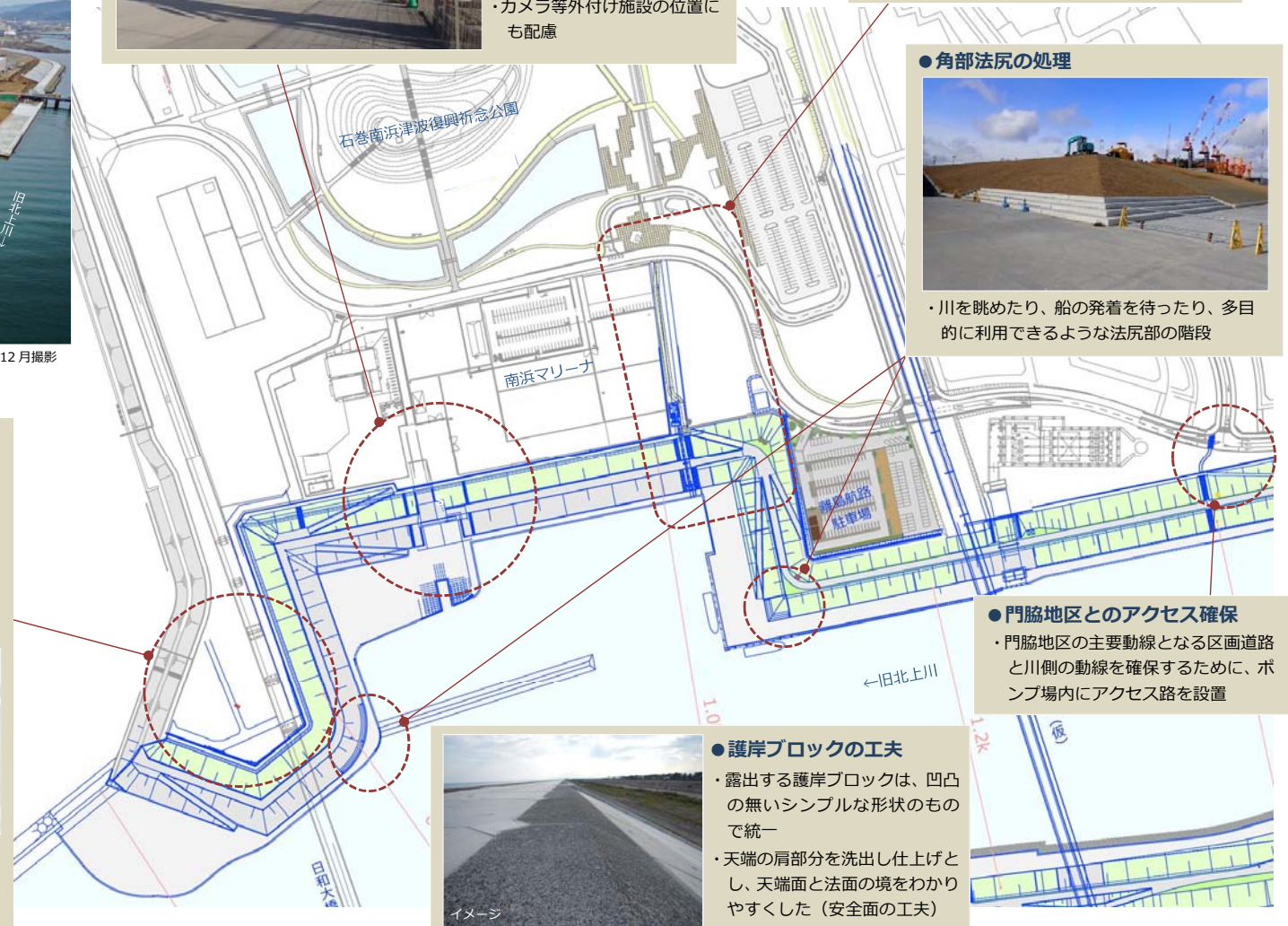


- ・川を眺めたり、船の発着を待ったり、多目的に利用できるように法尻部の階段

●雲雀野突端部の広場スペース



- ・堤防裏法を緑化し、広場から堤防天端に続く景観的な一体感を創出
- ・恩賜燈・石巻港水難者供養塔等の復元
- ・河口部利用者のための駐車スペースを整備
- ・その他、多目的に利用できる広場スペースを整備
※整備中



●門脇地区とのアクセス確保

- ・門脇地区の主要動線となる区画道路と川側の動線を確保するために、ポンプ場内にアクセス路を設置

●護岸ブロックの工夫

- ・露出する護岸ブロックは、凹凸の無いシンプルな形状のもので統一
- ・天端の肩部分を洗出し仕上げとし、天端面と法面の境をわかりやすくした（安全面の工夫）



(2) 中央地区

整備の考え方(当初案)

川湊石巻の賑わいの拠点としてのまちづくり(堤内地側の整備)と一体となり賑わいの場づくりを補完する、水辺ならではの魅力の場の創出

- 川湊としての実用空間であることを踏まえ、過度な装飾は避けた機能的な空間づくりを基本にします。
- イベント時も含め多目的に使われる空間となる、居心地の良い空間づくりを目指します。



当初整備イメージ



令和2年8月撮影

●広場空間



- ・川を見ながら過ごす、芝生の中で過ごす、奥まった静かなところで過ごす、子供たちを遊ばせ見守るなど、それぞれの目的に沿った居場所がある、集い・憩いのスペース

●デッキ部分の舗装



- ・堤防一体空間のデッキ部分の統一を図るため、また、質の高い空間形成のため天然木(レッドシダー)を使用

●四阿



- ・シンプルで川に向かうような細長いデザイン
- ・川や船などを見下げ、背面側の樹木を見上げるような方向性をつくる屋根の形状

●広場の植栽

- ・花・紅葉等、四季が感じられるとともに、地域性に配慮した樹種



植栽前に、現地にて1本1本位置を確認し、微調整



地域の方々との植樹祭



●法面・法尻の石積

- ・上流の井内地区が産地の井内石を使い、腰掛けやすい高さの(70cm・40cm)石積み
- ・芝生に座ってのんびりできるよう、下に向かって緩やかな勾配とした法面



石積みの方について、細部にわたり現地にて調整

●交通広場前堤防一体空間



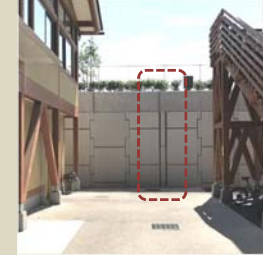
- ・キッチンカー等の設置空間 (幅=10.5m 堤防天端部分含む)
- ・アクセントとなる植栽、転落防止も兼ねたロングウォールベンチを設置

●デッキ部分の舗装



- ・いしのまき元気いちば、かわべいと一体となるデッキの設置

●擁壁部の修景



- ・堤防と元気いちばとの境界の擁壁は、コンクリートパネルが単調にならないよう工夫 (縦スリットを強調したデザイン)

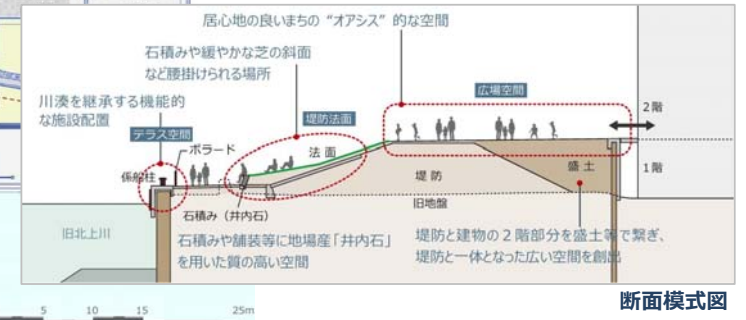
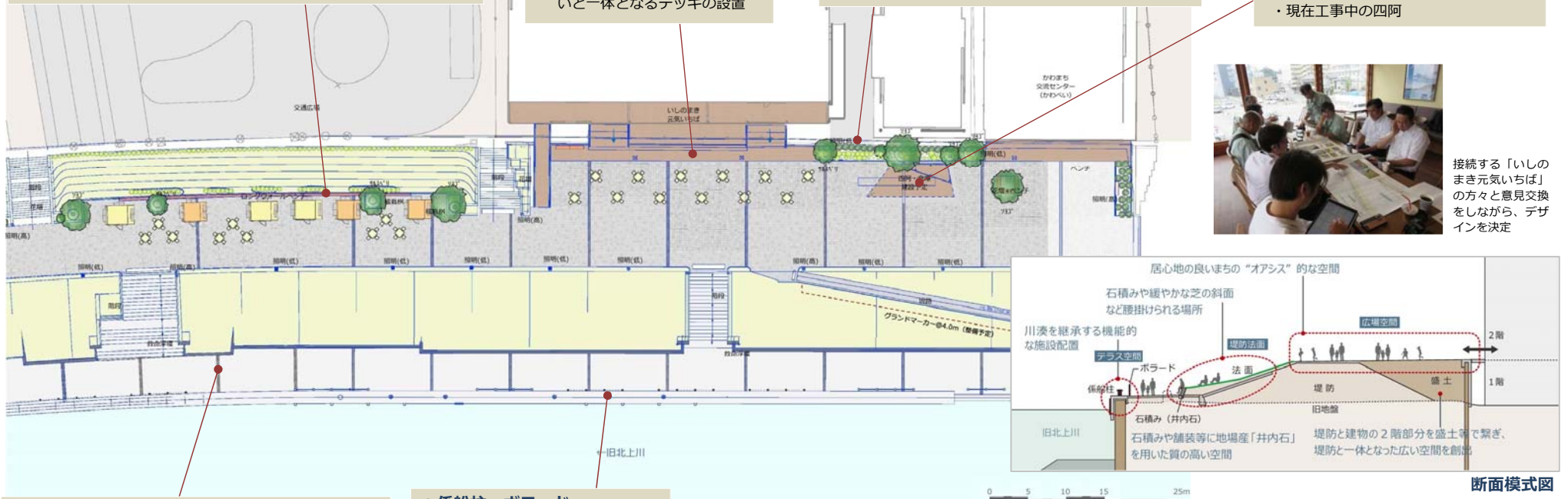
●四阿



- ・現在工事中の四阿



接続する「いしのまき元気いちば」の方々と意見交換をしながら、デザインを決定



●テラス空間



- ・井内石のボーダーラインを入れたテラス空間

●係船柱、ボード



- ・井内石をモチーフにした色の係船柱



ボードの間隔、チェーンの垂れ幅等について、モックアップを作り確認

●照明

- ・夜間利用ならびに「夜景」にも配慮した照明を設置



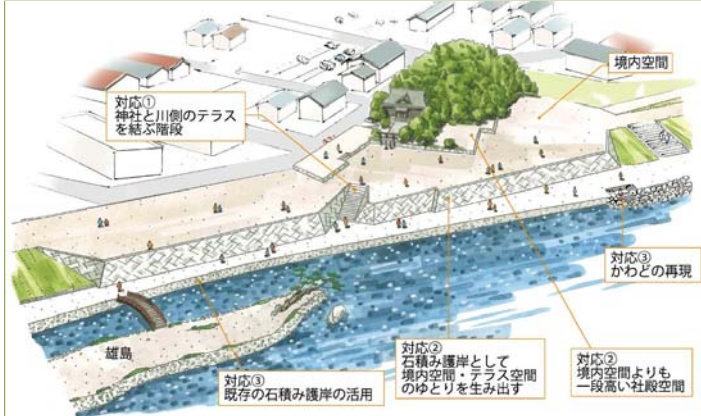
現地で異なる高さの照明を比較し、高さを設定

(3) 大島神社前

整備の考え方 (当初案)

神社、雄島・太鼓橋等との関係を十分考慮した川側に開けた神社・公園空間の創出

- 神社前にふさわしい格の高い丁寧な空間づくりを行います。
- 神社、雄島・太鼓橋等、各々の神社・公園施設の位置関係等に十分配慮します。
- 「袖の渡り」の対岸である八幡地区との「見る一見られる」関係にも配慮します。



当初整備イメージ



下流側にある「浮棧橋」を残す形で堤防を整備。浮棧橋を補修し、引き続き活用できるようにした。



● 川裏側擁壁



- ・ 川表側同様、男鹿石の石積に井内石の笠石を設置

● 石積と大島神社の佇まい

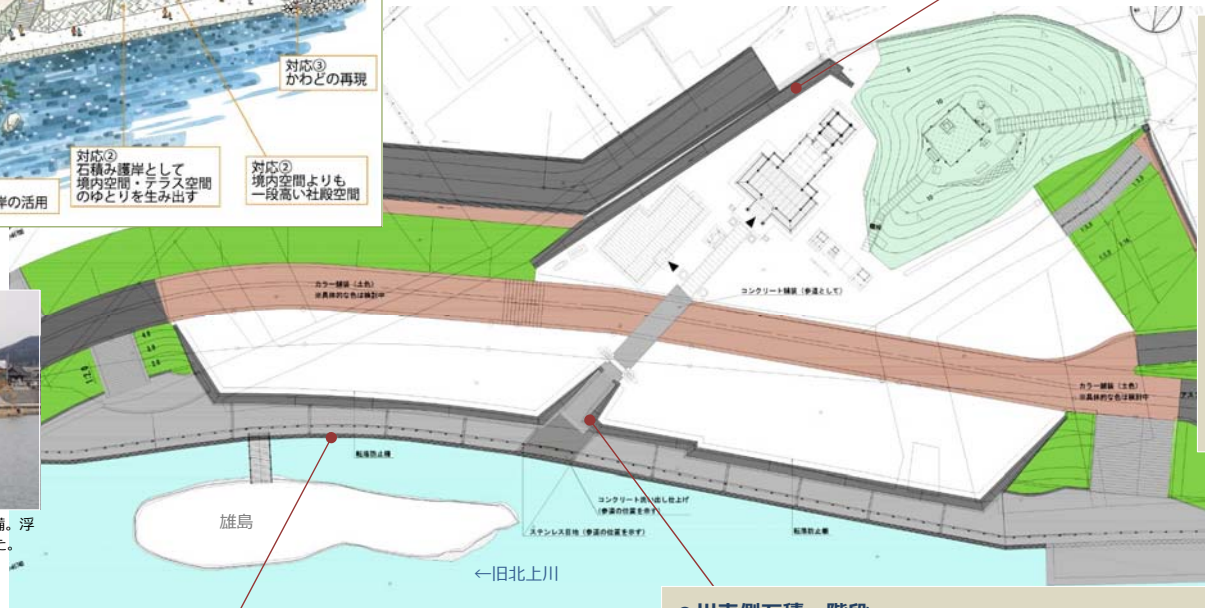
- ・ 石積によって神社前に相応しい風格ある景観を創出



対岸より



似たような石積の場所で、笠石の設置方法等の細部形状を確認



● 既存の石積み護岸の活用

- ・ 震災後コンクリートで高上げた部分を取り壊し、以前からの井内石の石積み護岸の景観を伝承



既存護岸を残すために、工夫しながら施工



● 川表側石積、階段

- ・ 男鹿石の石積に井内石の笠石を設置
- ・ 管理用通路との交差部や階段、階段下テラスの舗装、ボーダーの方向等、参道の軸線 (冬至の日の出の方向) を強く意識し、その存在を乱さないように十分配慮したデザイン



コンクリートの洗出し仕上げを試験的にを行い、イメージを確認

(4) 住吉小学校前

整備の考え方(当初案)

河道の変遷の姿を留める場として位置付けるとともに
子供たちが自然環境に触れ合え、学び・遊べる場

- 住吉小学校児童を対象としたワークショップでの意見を活かし、学びの場・遊びの場としての堤防空間を創出します。
- かつての堤防の名残を想起させるような堤防の形状とします。



当初整備イメージ

※当初計画していた上流側の水制工について

旧支川合流部の名残を残す堤防形状をより印象付けるため、堤防の表表面の線形と調和したラインを持つ水制工を計画したが、川前の水深等の制約から、施工可能な施設規模は限られたものとなり、意図する十分な景観効果を得られないため、設置しないこととなった。

●飛石ブロック

- ・親水性を高めるために、水際に飛石ブロックを設置



視察した他箇所的事例等も踏まえながら検討



●親水テラス



- ・干潟空間(上流側)に向かって徐々に下がっていく親水テラス

●干潟空間



- ・専門家に意見を伺いながら、干潟空間を設計
- ・川側に入っていくように、修景捨石を設置
- ・今後ヨシの移植等を地元と協働で実施する予定

●天端の広場スペース



- ・親水テラスや干潟空間を眺める天端の広場スペース
 - ・上記箇所ならびに河口部の方向に向けて、バーゴラやベンチを設置
- ※整備中

(5) 川口・湊地区

整備の考え方 (当初案)

都市内の身近なオアシスとしての整備

- 生活空間や産業活動に隣接するエリアであることから、市民の散策や憩いの場を目指します。
- 日和山や中瀬、河道の合流部を眺めたり、川開祭等の観覧等ができる場とします。
- 堤防上に並木をつくるなど、地域の新たな名所となるような整備を行います。



当初整備イメージ

●親水テラス



- ・水位の変化で様々な表情を生み出すとともに、遊び・休憩など様々な利用ができる親水テラス

●樋門操作室



- ・雄大な河川空間の中で、存在感が際立たないよう配慮したシンプルなデザインの操作室
- ・川表側にはベンチも設置 ※各箇所共通

●親水テラス



- ・防災緑地1号(二線堤)との合流部の広場と呼びた川側の親水テラス
- ・水位の変化で表情を変えることを意図
- ・上流側に植生基盤を作り、坂路からのアイストップとなる位置にナワシログミを植栽(河口部の厳しい条件を加味し樹種を選定)



令和2年12月撮影

●植栽テラス

- ・区間を絞って植栽テラス(ヨシ等の自然活着を想定)を設置



石の位置等を微調整して仕上げ

●防災緑地1号(二線堤)合流部の広場空間



- ・トイレや駐車場を備えた広場
- ・天端空間は、パーゴラ・ベンチ・築山等を設けた地域の憩いの場として整備 ※整備中

水際の修景捨石 ※全区間共通



車椅子の方やベビーカー等が川へ転落しないよう、テラス空間より石を高く盛り、転落防止対策を兼ねた仕上げとしている。当区間において数パターンの高さを試行したうえで、石を盛る高さを決定した。

(6) 不動・八幡地区

整備の考え方(当初案)

- 住宅地に近接しているため、地域の集い・憩いの場となるような空間、のんびり散歩できるような空間としての整備します
- 「袖の渡し」の歴史を想起させる場、孫兵衛競漕や灯籠流し等での利活用等に資する場を整備します

●かつての河岸の形状を留めるテラス空間



・もともとの河岸のラインを尊重した線形でテラス空間を整備



自然な線形となるような細かな工夫(テラス(コンクリート)との境界線の石の積み方等)も現場にて検討

●親水テラス



- ・川開き祭り等を楽しむ観覧の場
- ・水際に腰掛けてのんびり過ごすことができる場
- ・内海橋から見た際にきれいにみえるデザイン

●親水テラス



洗出し仕上げのラインを入れて、段差となる部分を明示



- ・対岸(大島神社前)と対になる「渡し場」をモチーフにした親水テラス
- ・孫兵衛船競漕や灯籠流し等の利活用にあたり、地域の意見を反映した整備



階段 ※全区間共通

まちと川とを結ぶ位置に設置した階段。自転車やベビーカーの上げ下ろし等の使い勝手を確認しながら設計を行った。



(7) 藤巻・井内地区

整備の考え方(当初案)

現在の河畔、石積護岸の風景を保全するとともに、井内石の産地として石の雰囲気を活かした整備を行う

- 現在の石積護岸を可能な限り活かしていきます。また、他の可能な箇所についても新たな石積護岸による整備を図ります。
- 釣り等のスポットとしての利活用等も考えます。



対応①
かわどの復元

対応②③
石積み護岸



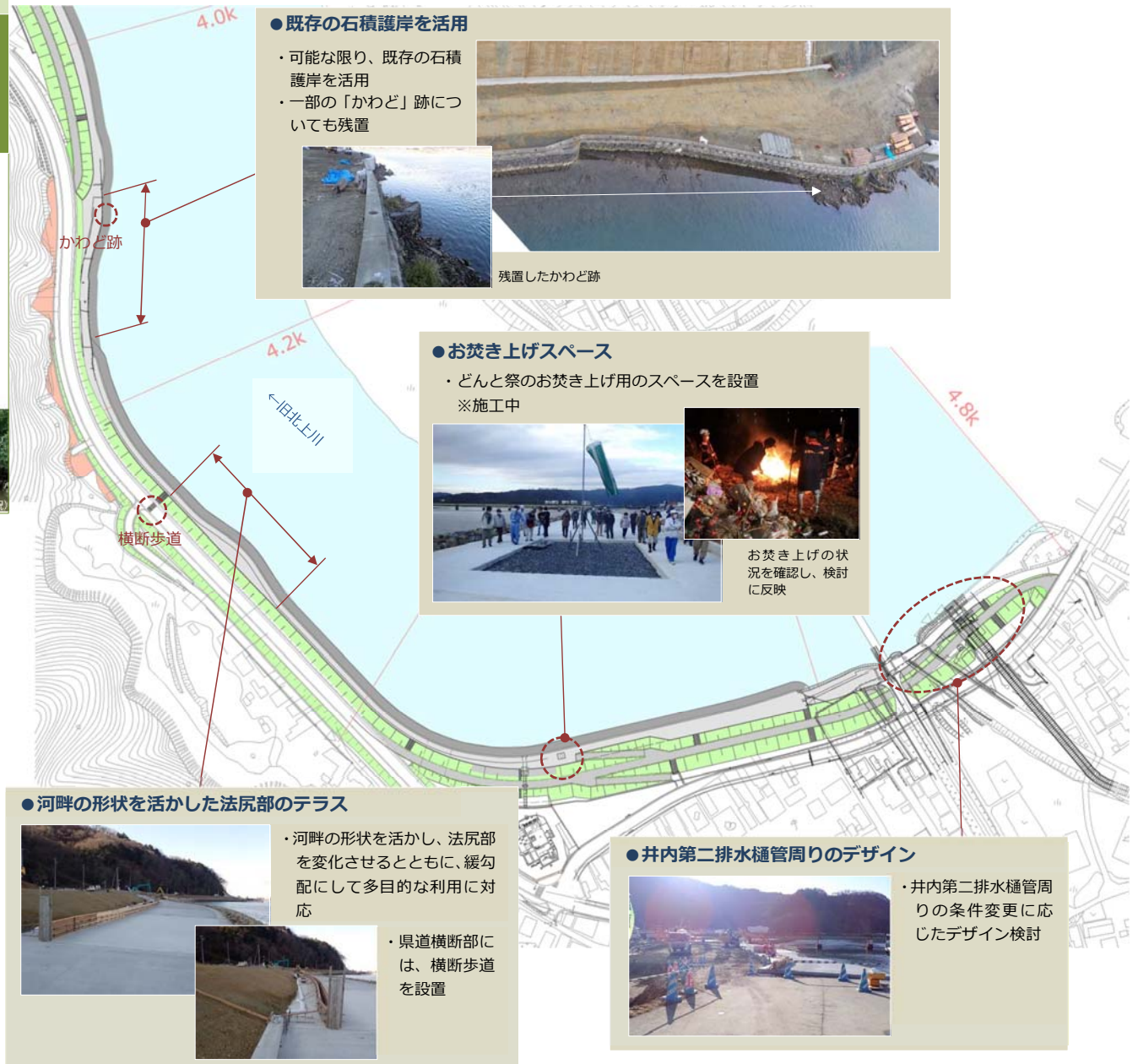
井内の石積み護岸(現況)



令和2年11月撮影



令和2年12月撮影



3 今後について

- 平成25年度から進めてきました「旧北上川河口かわまちづくり検討会」は、今年度で景観に関する検討が完了となるため、今回で検討会は終了となります。
- 平成25年度から進めてきました設計思想から検討の経緯等を記録として残し、今後、当初の設計意図に配慮した維持補修が行なわれ、良好な水辺空間が継承されるようにしていきます。

■検討会・市民部会等と工事に関する経緯

地区	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
◆検討会 ◆調整会議	◆◆◆		◆	◆◆	◆◆	◆	◆	◆
右岸	南浜・門脇2・3丁目地区		市民部会			市民部会	検討結果の報告	利活用等に向けた取組み
	中央・門脇1丁目地区		市民部会			市民部会	社会実験の実施・モニタリング	利活用等に向けた取組み
	住吉・大橋地区		市民部会			市民部会	市民部会	利活用等に向けた取組み
左岸	川口・湊地区		市民部会		市民部会	市民部会	利活用アンケート	利活用等に向けた取組み
	不動・八幡地区		市民部会		市民部会			利活用等に向けた取組み
	藤巻・井内地区		市民部会			市民部会	市民部会	利活用等に向けた取組み

■旧北上川河口かわまちづくり整備の記録について

旧北上川河口かわまちづくり整備の記録を、「旧北上川河口かわまちづくりデザイン指針（仮称）」としてとりまとめます。

《作成のねらい》

東日本大震災を契機として実施された、旧北上川河口かわまちづくりの計画検討から完成までの姿を記録として残し後世に伝えることにより、今後、当初の設計意図に配慮した維持補修が行なわれ、良好なかわまち空間が継承され続けるようにする。



《全体像（イメージ）》

●内容構成（目次案）

1. 旧北上川河口かわまちづくりの方針

かわまちづくりの基本方針

全体設計の方針

デザインの方針

検討体制（検討会／ワーキング／市民部会）

2. 地区別・拠点別整備計画

6つの地区区分ごとの、全体整備計画・拠点整備計画の整理と解説

3. 共通デザイン

階段工／坂路／樋管施設（操作室・扉室）／安全対策（水際部・親水テラス）などの共通施設のデザインの整理と解説

4. 関連事項

橋梁整備、沿川まちづくりなどの関連事項についての整理と解説

●記述方法

- ・図面、写真を中心に記述
- ・結果だけでなく、“なぜそのような整備を行ったのか”がわかるように記述